

再び統監政治に就て

●會寧地方の狀況

將來を臆測するに及び、民心の統一、暴徒の鎮定の急務は急務たりと雖ども、猶と未なり枝葉なりと放言せん哉、然り枝葉なり未なり果して然らば其根本とは如何、我統監政治の革新にあり、宜しく繁文縟禮の習弊を打破して、以て汎く人材登用の活路を開くに在て存す而して非常なる人物を擧起す、非常なる實力と誇りと、非常なる才と材材は蔑視となして豆滿江を下し會寧

一月より四月迄

一月より四月迄

服男百回木 (一)

野の雉夜の鶴、廣き三千世界に誰れか



社界百面相

(一)

▲焼野の雉夜の鶴、廣々三千世界に誰れが

新不如歸

篠原嶺葉著

「冗談ぢやありませんよ、私本當に猿さる。」



時の状態に及ぶ、時勢の變轉は時に瞬間に

●直江津の大火
新潟縣直江津の大火は精米所より起り燒
失家屋七百戸死傷者あり損害額は七百四十
十一萬圓に上る（五月東京新聞）

●汽船直下後の乗客
大阪商船が日本汽船客運直下を斷行した

に四百十一名に登りたりと而して仁川
日本に向ひたるものゝみに就いて三
を比較せば左の如し

三月 中	四月 中
一五九人	一三七
一九六	一八〇

仁川
川群
硯

船	二一三
船	一一一
崎	一八
同	五
船	七〇
船	一五六
船	一五

は無い譯で、す歐米にも日本にも斯か
 仁川開港紀念會
 寄附取扱
 從來募集員に於ての取扱ひ居

同 山口大兵衛 同 曾

出張中	の一部	二銀支	勉
昨夜	●聯合	歸任せり	せり
	(四日附)		
甘藷副統監上京に付隨行を	各道		
公人私人	同		

△野手耐(元山瑞)
△田上芳味傳
△岩中良三郎(元山瑞)
△佐々木正太
△收相愛(同上)
△山崎清五郎

の元山役綱長）兼知火旅館へ
見へる相撲道的好漢自愛して可也

(同上) 浦尾へ
長三郎(統監府技師) 巴城館へ
示正太(全州監督局長) 浦尾へ
清五郎(金海監獄所主事) 同上

女房を殺す



人天有の慈悲心ありて見ず知らずの人は、運命に倒れて苦しむを見ては扶け起すが人情なるに愛を殺すといふは深き事情のなるなり。今何れは本誌に既記の如く、その事柄を記し、その結果を記す。...

△被害者 山崎屋敷村字南戸町九百一十番地の者にして、當地花園町二十五番に住し、水廻り夫となりて、柳口を渡りて、海軍省に在る者なり。...

△被害者 山崎屋敷村字南戸町九百一十番地の者にして、當地花園町二十五番に住し、水廻り夫となりて、柳口を渡りて、海軍省に在る者なり。...

△被害者 山崎屋敷村字南戸町九百一十番地の者にして、當地花園町二十五番に住し、水廻り夫となりて、柳口を渡りて、海軍省に在る者なり。...

△被害者 山崎屋敷村字南戸町九百一十番地の者にして、當地花園町二十五番に住し、水廻り夫となりて、柳口を渡りて、海軍省に在る者なり。...

△被害者 山崎屋敷村字南戸町九百一十番地の者にして、當地花園町二十五番に住し、水廻り夫となりて、柳口を渡りて、海軍省に在る者なり。...

△被害者 山崎屋敷村字南戸町九百一十番地の者にして、當地花園町二十五番に住し、水廻り夫となりて、柳口を渡りて、海軍省に在る者なり。...

△被害者 山崎屋敷村字南戸町九百一十番地の者にして、當地花園町二十五番に住し、水廻り夫となりて、柳口を渡りて、海軍省に在る者なり。...

風月堂と東京堂

予の見たる商店 角帯小僧

風月堂と東京堂

風月堂と東京堂

胃病と脳病

胃病と脳病

胃病と脳病

胃病と脳病

森田商店

森田商店

森田商店

森田商店

水大販賣

水大販賣

水大販賣

水大販賣

高等理髮館

高等理髮館

高等理髮館

高等理髮館

御下宿

御下宿

御下宿

御下宿

味趣

味趣

味趣

味趣

帽子洋傘其他

帽子洋傘其他

帽子洋傘其他

帽子洋傘其他

電話開通

電話開通

電話開通

電話開通

御入並提燈類

御入並提燈類

御入並提燈類

フツマ新調

フツマ新調

フツマ新調

意隨院入

意隨院入

意隨院入

小川病院

小川病院

小川病院

熊平支店

熊平支店

熊平支店

三河屋

三河屋

三河屋

金崎仁三郎

金崎仁三郎

金崎仁三郎

電話開通

電話開通

電話開通

電話開通

電話開通

電話開通

